



TIFA会報

Tachikawa International Friendship Association

2014年1月23日
Vol.107
立川国際友好協会
発行責任者 齋藤 實
編集責任者 山崎員弘

新春所感

今年も「楽しく、仲良く、元気よく」

立川国際友好協会 会長 齋藤 実

2014年(平成26年)の新春を迎え、皆様と喜びを共にしたいと思います。

昨年度は、ボランティアの皆様の熱意あるご指導の結果、日本語検定受験希望者の合格や国際高校入学試験の合格者を生みだすことができました。



日常の地道な活動でも一人一役の各部に属する年間行事計画により、節分、雛祭り、七夕祭りと言った日本の伝統文化に対する理解を体験学習などを通じて指導しながら、受講生との交流を重ねる事が出来ました。更に立川防災館の体験学習や市長との対話集会で外国人受講生に対する災害予防対策や安全で安心な生活確保に貢献出来たものと思います。

更に TIFA 独自のバス旅行や実践女子大学日本語研究会との協力で、初めて実施された研修旅行や春秋2回開催された南砂小学校4年生と受講生との交流会も大変充実した行事として定着してきており、喜ばしい限りです。

各教室毎に企画されたボランティアと受講生との交流行事や、秋の世界ふれあい祭りへのバザーの参加で示された結束力、3教室を網羅したイヤエンドパーティーも参加者が年々増え、昨年度は200名を超える大盛況となり、国際友好協会の名に恥じない、家族で楽しめるパーティーとなりました。

以上、振り返ると日頃の日本語指導に加えて多彩な行事に、皆さんが時間と労力を惜しみなく提供して下さいました事に心から感謝申し上げます。

さて、今年度 TIFA の目指すものは、日本語指導に関わるボランティアとして常に心掛けて頂きたいことがあります。それは、人間は言葉によって傷つき、言葉によって迷い、同時に言葉によって目覚めると言う事です。

この言葉を心にとめながら、お互いの語感を高め合いたいものと願っております。必ず個々人の指導力の向上にもつながるものと信じています。

個人的には立川市を「真の意味の多文化共生都市」にする為、有能な外国人の定住者を増やし、第2、第3の小泉八雲的人材を育成したいと目論んでおります。今年も「楽しく、仲良く、元気よく」を合言葉に TIFA 活動を盛り上げて参りましょう。

外国の方々の心に笑顔の花を

立川市産業文化部長 新海 きよみ

新しい年を健やかに迎えのことと思います。TIFA会員のみなさまには、旧年中たいへんお世話になり、ありがとうございました。



TIFAでは日本語教室のほか、さまざまなイベントを行い、日本に在住滞在されている外国の方々との交流を深めていただいております。

昨年12月に市長と外国人の方々とのタウンミーティングがあり、わたくしも参加させていただきました。日常生活のさまざまな場面で、外国からいらした市民の方が感じている不安や不満、またTIFAをはじめとする市民のみなさまのボランティアな取り組みに対する感謝などをあらためてお聞きすることが出来、貴重な機会でした。

世界の色々な国の方々との交流し、友情を深め、信頼し合うことは、本当に素晴らしいことです。特に、これから成長し羽ばたいていく子どもたちには、TIFAのみなさまが体現しているその素晴らしさをぜひ身近なものとして実感し、後に続いてほしいと願っています。また、こういった活動を長く継続されて来られたこと、その地道な努力の尊さを痛感しております。

どうかこれからもみなさまが活き活きと楽しく活動を展開し、ますます多くの外国の方々の心に笑顔の花を咲かせてくださいますよう、心より期待しております。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFATA

次年度正副会長推薦選挙結果

各部長の新体制も決定

次年度正・副会長選挙の開票は12/21(イヤードパーティー前)両副会長立ち会いのもとに行われました。推薦選挙の結果は以下の通りで、1/18の運営委員会が推薦数最多の3氏に3役をお願いし、了解され続投が決定しました。

尚、選挙内容は以下の通りでした。

*立候補者：なし。

*投票率：74.2%(投票会員数49人(内、白票4人) / 柴崎教室会員数66人)。

*得票数：(敬称略・あいうえお順、数値は得票数)

【会長 票】齋藤 実(34)、佐藤達夫(5)、橋本溪一(2)、

小木曾夏樹、波多野進、山崎員弘、山下良子（1）

【副会長 票】赤嶺令子（24）、波多野進（18）小木曾夏樹（4）、柏田泰利、近藤 誠、長屋多美子、原島 貢（2）、牛島 芳、大内マサ子、小林 保、齊藤 實、佐藤達夫、富田康予、中西久代、橋本溪一、森 和子、山崎耕造、山下良子（1）。

また、各部の部長も運営委員会で次の通り決定しました。

会計（吉澤孝一、土曜）、企画渉外（近藤誠、木曜）、広報（小林保、土曜）、日本語教室（小木曾夏樹、木曜）、（橋本溪一、土曜）、事務局（柏田泰利、木曜）、会計監査（山崎員弘、木曜）。

今後、昨年末に行った所属希望アンケートをもとに、両副会長により、各副部長、部員が決められますが、所属希望の部員数に偏りがあり、適正化に向け調整が入りますので、ご理解・協力をお願いします。（KY記）

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

立川で暮らす外国人 その4

市内各団体の事業から外国人が利用しやすい事業の紹介 木曜教室 佐藤達夫

立川で暮らす外国人シリーズ最終回に市内の各団体の事業の中から孤立化防止などに役だつ支えあいサロン事業を取り上げます。この事業は社会福祉協議会内の市民活動センターが実施しており、支えあいサロンの目的は、高齢者や外国人、子育て中の親などの孤立化を防止するため、みんなで集まり交流する場であり、日頃からの交流が、いざという時に支えあえる関係を作ります。まただれでも参加できるオープンな場でもあります。

（支えあいサロンの作り方）

まず友達や近所の方を誘い仲間を集めます。仲間とどんなサロンにしたいか話し合い、例えば、話し合い茶話会、お菓子づくり、散歩の会、料理、英会話、健康体操、食事会など様々です。「サロン名」「場所」「活動日」「会費」などを決め、会場は自宅の一室でも学習館でも可能です。開催は、月1回で週1回でも大丈夫です。人数は3名から登録できます。

（保険料や運営費用）

活動先に向かう時に、もし事故にあつたらなど不慮の事故に対しても、安心して活動するために、帰宅までに起きた事故を保険で補償してくれます。保険代は社会福祉協議会が負担してくれます。また講師料、材料費、会場費に対して額は少ないが補助金が出ます。

（設立状況）

支えあいサロンは、現在市内に多数設立されております。ボランティアのみなさんも仲間でサロンを始めてはいかがですか。また受講生にこのような支えあいサロン事業を紹介してください。きっと仲間づくりや孤立化防止に役立つことと思います。

（より詳しくお聞きしたい場合は）

市民活動センター TEL 042-529-8323

E-mail : aiaivc@whi.m-net.ne.jp

最後になりますが、外国人が日本で暮らすうえで直面する言葉の壁は、日本語教室などで、心の壁は、ここで紹介するサロンなどで孤立化を防ぎ、制度の壁は行政に利用しやすい仕組みを求めるといろいろきめ細かな対策が必要となるものと思います。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

内野貴之さん(土曜)のサイクリング

今回は、サイクリングで日本1週5300kmを39日かけてやったという、TIFAでは一番の若手、内野貴之さん(土曜)に登場いただきました。

——サイクリング歴は——

小学校高学年～中学のころは、長期休暇になると埼玉県行田市の祖母の家まで片道50kmくらいちょくちょく行っていました。泊まりがけの遠出は、大学の時に名古屋までママチャリで行ったのが始まりです。初挑戦で5日かかりました。

——自転車の種類は、またギアにも拘りがあるんでしょうね——

マウンテンバイクかロードバイクですね。積載量の関係から、日本一周ではマウンテンバイクを使用し テント寝袋調理器具アウトドアフルセット積んで、基本的に宿泊費は0円で済ませます。マウンテンバイクは米国 Schwinn のモアブという車種。2000年だか2001年モデルなので、10年以上乗ってます。

ロードバイクはベルギーRidley社のオリオンという車種。2010年モデルのカーボン製の軽量自転車です（フレームだけで14.5万、完成車で30万位だそうだ!!）。

——好きなサイクリングコースは？——

陣馬山の入口・和田峠に挑戦するのが好きです。都内のヒルクライムの定番コースで、早い人は麓から峠までを15分で登らしいのですが私は25分ほど。まだまだです。

——各地でのロードイベントなどへの参加は？あるとしたらどんな大会に参加ですか？——

長距離や坂道を走るのは得意ですが、早いわけではないので積極的にレースやロードのイベントに参加してはなりません。昭和記念公園でのトライアスロンにはちょくちょく参加しています。レインボープールの始まる前後の6月と9月で、距離はスイム750m、バイク20km、ラン5kmで、オリンピックなどの半分です。いわゆるハーフトライアスロンなので、比較的気軽に参加でき、立川トライアスロン協会からもお誘いを受けましたが、毎週のように練習をするほど熱心ではないので、マイペースに一人でやっています。

——日本一周をやられたとか！？——

2010年8月1日に立川を出発、ルートは、立川→八戸→[フェ

も当たり外れはなくおいしいものばかり。野菜、肉は日本より種類豊富 肉、ハムは量り売りもあり、惣菜コーナーもありました。レジの方が必ず” How are you?” と言われるので” Fine thank you” これは異文化？お土産屋さんへ行くより私的には楽しかったです。

ここヴィクトリアでの交通機関は市バス、乗用車、自転車しかありません。ある日観光名所の一つである castle and museum に行くためにバス停に、すぐ来るはずのバスなかなか来ません。日本では考えられないほど、でも地元の方々はイライラしたり、時計を見たりすることなく静かに待っています。来る時には来ると感じます。バスに乗って驚いたのはアナウンスが一切ないということです。故に車内は静かです。降りるところは自分で気を付けないとならないのです。途中で車椅子の方が乗ってくると皆が協力し手伝い、スペースをすかさず作ったり、御歳の方が乗ってこられたら若い方が一斉に立ち上がり席をあけたり気持ちの良いほどです。年配の方々は若い人たちを暖かく見守り、若い方々は年配の人たちを優しく尊敬を持って接するそんな感じをここヴィクトリアで見せてもらったように思います。

でもカナダでも大きな都市では日本とさほど変わらないのかもしれない。なにしろこの都市は定年後住みたい都市一位か二位に入っているくらい緑豊かな青空が美しい老人に優しい町なのですから。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

☆☆各種行事報告☆☆

1、木曜教室ランチパーティ

12月19日は2学期最終の学習日です。



日本語学習終了後、ランチパーティで2013年を頑張ったことを講えあって楽しく盛り上がりました。前日から一生懸命に準備して、真心で持ち寄

ったお国自慢の料理です。

韓国やベトナム、ブラジルなど日ごろお店に行っても食べられないおいしい家庭料理と日本の家庭料理がテーブルいっぱいに並びました。こんな風にみんなで持ち寄ってみんなで食べられることを幸福だと思いました。

乾杯の後は、作り方の交換や日本語の学習のことなど、同じ教室にいても中々語り合う時間が少ないので、ランチパーティは貴重な行事だと実感します。(MK記)

2、柴崎学習館最後のイヤーエンド・パーティ

12月21日(土)に行われたイヤーエンド・パーティは、柴崎学習館での最後のパーティになりました。

今年の参加者は202名で、昨年より6名少なかったようです。大盛會に終了でき、TIFAの結束力を内外に発揮出来た事をお互いに喜びたいと思います。来賓に行政関係者の出席が無く残念でしたが、初めて市議会議長、厚生産業正副委員長、文教委員の4名の市議会議員、多文化共生センターの理事長それに元ボランティアの武居・宮内・小川さんがおいでくださいました。

例年のごとく大勢のボランティアの皆さんが準備に携わり、舞台、会場は風船で飾り付け、また各テーブルにも風船の花を置き、華やかさを添えました。

五目ちらし、カレー、おでん、豚汁、ババロアプリンと会員手作りの料理を美味しくいただきました。「おもてなし」の気持が生徒さんたちに届いたことと思います。



余興の出し物は盛りだくさんで、人気のフィリピンチームのダンスもアンコールがあり、また可愛らしいお子さんのバレーやピアノ演奏、特に、今回は

土曜教室ボランティアと学習者による影絵があり、これは中国を珍しい出し物で面白かったです。

他にも各国の民族衣装ショーやバイオリン演奏、ソプラノ独唱それに各



クラスのコーラスなど会場の皆さんは時間がたつのを忘れて聞き、



見入っていました。恒例となったサンタクロースのプレゼントや景品の抽選会そして東京音頭の踊りで今年の締めくくりのイヤーエンド・パーティになりました。

参加者の一人は、「受講生と其の家族、友人、以前クラスに参加していた受講生が一年に一度の旧交を温め交流している様子はたいへんうれしく、さながら Home Coming Day となり、『外国人の為の日本語教室』の20年以上に渡る歴史をかんじました。『出来る人が、出来る時に、出来ることをする』とのことでした。

また来年に向けて別のイヤーエンド・パーティが始まることを期待しています。(TS記)